

国立ハンセン病資料館学芸部社会啓発課の取り組み

1. 2014年8月に学芸部社会啓発課が2人体制で発足

ハンセン病患者・回復者への偏見・差別と人権侵害の再発防止には、ハンセン病についての正しい知識とともに、ハンセン病を理由として人を差別し、地域社会から排除することは許されない。病気がその人の姿かたちをどのように変えようとも、人は人として尊重されるということを繰り返し学習することが大切です。

ハンセン病患者・回復者に対する偏見・差別、排除の解消と名誉回復のため、私たち社会に同じ過ちが繰り返かえされないため、より多くの方々に当資料館に来館して頂きたいのですが、遠方の方など当館への来館が難しい場合が多くあります。ハンセン病問題に対する啓発活動は全国規模で行われるのが望ましいと考えています。そのため、外部講演、また、自治体等が主催する写真パネル展への講師派遣、語り部DVDや啓発DVDの作成、啓発用パンフレットの作成と普及など啓発事業を強化推進するため2014年8月に社会啓発課が発足しました。社会啓発課では、以下の事業を行います。

1) 教育啓発活動

- a. 講師派遣：市民公開講座、新任職員人権研修会、人権担当教員・職員研修会、小中学校等の教育機関、医学部・看護学部などに講師を派遣します。
教員免許更新講習：10年目研修、教員研修プログラムの研究
東京学芸大学教員免許更新講習の実施
- b. 講演内容：ハンセン病医学、ハンセン病の歴史と政策、ハンセン病療養所と入所者の現状、人権についてなど。
- c. 時間：1時間～2時間、
- d. 費用：無料

2) 教育委員会に対する小中学校の誘致活動

教育委員会に資料館の人権学習プログラムを説明し、小中学校の来館について誘致活動を行う。

3) 「ハンセン病と人権」夏期セミナーの開催

先生方にハンセン病問題について正しい理解をしていただき、生徒たちにハンセン病問題を通して、命と人権の尊さと大切さを伝える教育に取り組んでいただくため、教員を対象としてハンセン病問題を総合的に学習できる「ハンセン病と人権」夏期セミナー（参加費無料）を開催します。

4) 英語版啓発DVDの作成

英語版「ハンセン病を知っていますか」を作成します（2016年作成しました）。

- 5) ハンセン病関連機関、学会・自治体・学校・地域との連携
- a. 栗生・長島・菊池・愛生園の社会交流館・歴史館、学芸員との連携
資料館・博物館、大学等関係機関との研究連携（社事大、ひめゆり平和祈念資料館など）
 - b. 市民公開講座・講演会の開催：市民、学生、教職員、医療・福祉関係者など
 - c. 学会、他の人権団体との交流・連携し、疾患・障がいを持っている方への偏見・差別、人権侵害について調査・研究を行います。
日本ハンセン病学会：学会参加・発表、感染症新法にハンセン病を入れる。
日本精神・神経学会：精神者障害法の隔離・拘束条項
ハンセン病市民学会、障がい者団体（身患連など）
 - d. 学会：学会発表、論文発表、
 - e. 研究連携：研究費獲得、大学・研究機関との共同研究の推進、

6)情報センター機能

(1)ホームページの充実

- ・キッズコーナーを充実します。
- ・Q&A コーナーを充実します。
- ・英語ページを充実します。

(2)英語版ハンセン病資料館紹介パンフを作成します。

2. 「ハンセン病と人権」夏期セミナーの取り組み

2015年「ハンセン病と人権」夏期セミナーの開催

2015年8月19日・20日に国立ハンセン病資料館で教員を対象に、21世紀を担う子供たちが困難に立ち向かい思いやりの心を持ち、お互いの個性や違いを認め合い、命と人権を大切にする人権教育を進めるためのきっかけを作っていただくための「ハンセン病と人権」夏期セミナーを開催し47名が受講した。募集要項には、小中学校の教員・養護教員としていましたが、高校や大学の教員、教育委員会、社会福祉協議会などからも夏期セミナーに是非参加させて頂けないかと強い要望が出されたため、定員に満ちていなかったことから参加を認めた。開催日程は、教育委員会に教員が夏期研修として参加しやすい日程をお聞きし決めた。近隣の教育委員会と校長会で夏期セミナーのお知らせをしましたが、インターネットでハンセン病問題について検索し、資料館のホームページで夏期セミナーのことを知り受講を希望したという参加者の方が多くなった。配布資料として、日程表、講演レジメ、資料、出張講座の案内を入れたファイルをお渡しした。19日は、開校式では館長挨拶と館長ミニ講演、DVD「ハンセン病を知っていますか」上映、語り部・平沢さんの「人生に絶望はないーハンセン病とともに70余年ー」、金主任学芸員の「ハンセン病問題の歴

史と資料館のあゆみ」、「資料館見学」を行った。初日の最後に参加者と「意見交換会」が行われ、長野県の学校の先生から、「学校で人権の授業をしてきたが、実感を伴って、自分自身のもので語れないことがあって今回参加した。今回の講座を楽しみにしている。病気になっても人は人、共感していかなければならない、自分が病気になったらどうなんだろうかということを考えていかなければならないということをお聞きしてハットさせられた。患者は大変な生活をさせられていた、あのようなことを国はしていたんだということ、第三者的に言っていた自分がいた、これからは、自分自身のもので語れる授業をしていきたい」と感想が寄せられた。20日は、儀同社会啓発課長の「ハンセン病医学」、黒尾学芸部長の「多磨全生園内フィールドワーク」、語り部・佐川さんの「ハンセン病と人権」、最後にハンセン病問題を通して子ども達が命と人権の尊さを学び自己の行動につなげることのできる授業実践をするために佐久間先生の「ハンセン病問題を授業化するには」の講演を行いました。講演終了後の討議で、平沢さんから「今後、学校、保護者、子供たちが一緒になってハンセン病問題を通して、命と心の教育を一步ずつ広げて行く取り組みを進めていただきたい」との発言があった。講師の佐久間先生から、子供たちに「今日、人権問題を学習したことを、親にも気持ちを伝え話し合いをしましょう」と宿題を出しているとの補足発言があった。

閉校式では、黒尾学芸部長から夏期セミナーが業務の一環として認められるよう修了証書を発行した。

夏期セミナー修了後、参加者からアンケート 33 通が寄せられた。8月21日の読売新聞に夏期セミナーの記事が掲載された。今回の「ハンセン病と人権」夏期セミナーの開催が、教師、社会福祉協議会、人権担当者、教育委員会などから期待されていたというがよく分かった。今後、夏休みだけでなく冬休み・春休み開催、一日講座、土日連続講座、授業実践のための研究会、平沢さんと話そう会+親子で学ぶハンセン病、教員向け講座、出張一日セミナーなどの具体化を検討している。夏期セミナー終了後、セミナーに参加された横浜市の小学校の先生から6年100名の講演依頼があった。また、出張「ハンセン病と人権」夏期セミナー開催の依頼が来ており、現在その具体化を進めている。

2015年夏期セミナー参加者

職 種	人 数(人)	%
小学校	16	34.0
中学校	10	21.3
高校	3	6.4
大学	6	12.8
教育委員会	2	4.3
社会福祉協議会	2	4.3

人権啓発センター	1	2.1
会社	6	12.8
その他	1	2.1
合計	47	100

アンケート回収率 33人/47人=70.2%

2015年夏期セミナーのアンケート

1. 授業実践でもやもやしていたところがクリアになった。
2. 自分で本を読み、見学するだけでは得られない実感を得て学習することが出来た。とても充実した時間をありがとうございました。
3. 2日間の流れがとてもよかった。初めての人でも学習内容がとても理解しやすい流れだったと思います。
4. このような学びの機会をいただけたこと、出会えたことに心より感謝いたします。2日間、一分一秒がもったいないほど、夢中でお話をお聴きしました。
5. 他人事ではなしに、自分のこととして考える。強く心に響きました。
6. 平沢さん、佐川さん、お二人の入所者の方のお話を聞くことができた事が、とてもよい体験になりました。お話をいただいたこと事を、しっかり子供たちに伝えていき、「人権の森」を守っていきたいと思います。
7. 東京都の教員全員に対し研修を行ってほしいと思います。教員になる人間は知っておかなければ事実がここにはたくさんあると思います。
8. ハンセン病医学に関するセミナーも新鮮だった。大学で講師として教える際、取り上げ実践する方法としても役たつ。
9. 佐久間先生の報告、とてもよくわかりましたが、もっと時間をかけてお聞きしたかったです。
10. 都道府県、市区町村の教育委員会に申し入れて全教師対象にセミナーを開催してもらいたい。

2015年夏期セミナーに対する要望事項

	要望事項
1	県教育委員会か会を通して、多くの先生に参加してほしい
2	市教育委員会とタイアップの開催
3	具体的教材を用いた実践授業
4	少年少女舎のフィールドワーク、土塁の見学、入所者の方との交流

5	対象を広げて一般社会人の研修を行っていただきたい
6	社会的にも啓発活動を行っている方の実践報告があるとよい
7	東京都の教員全員に対し研修を行ってほしい
8	東村山の教員対象の企画があるとよい
9	このセミナーは、毎年行ったほうがよい。教育委員会を通して全教員にいくとよい
10	夏休みに3～4日間の集中したプログラムが必要
11	親子向けセミナーがあるとありがたいです
12	入所者の生活を知りたい

2016年ハンセン病と人権夏期セミナーの開催

2016年8月19日(金)「ハンセン病と人権」夏期セミナーを当館映像ホールで開催した。時間は午前10時から16時25分までで、118名の方々に参加していただいた。今年は対象を一般として広く参加を呼びかけた。実際には参加者の七割は教員で占められ、学校現場からの関心の高さがうかがえた。

本年度の内容は館長講義、ガイダンス映像視聴、語り部の平沢保治さんのお話、学芸員らによるハンセン病医学・歴史等の講義、館内見学であった。

館長の講義では参加者に対する「あなたたちは差別者ではないのか」という問いかけから始まり、それぞれが内面に持つ差別意識について考えて欲しいと訴えた。その後、ガイダンス映像「ハンセン病を知っていますか」の視聴をはさみ、語り部の平沢保治さんから「ハンセン病と人権」というテーマでお話いただいた。14歳で全生園に入所してからの半生を振り返りながら、今子ども達に伝えたいことは「命とこころの大切さ」であり、啓発活動の担い手となる子ども達への期待を語った。またそのためには教育が何よりも重要であるとした。

午後からは、儀同社会啓発課課長が「ハンセン病医学」について、金学芸員が「ハンセン病問題の歴史と資料館のあゆみ」というテーマで講義を行った。

展示見学では、長時間に渡ったプログラムにも関わらず、参加者からは疲れも見せず熱心に見学する様子が見られた。セミナーの最後に、黒尾学芸部長より代表者に修了証書を手渡し、本セミナーの幕を閉じた。

夏期セミナー修了後、参加者からアンケート66通が寄せられました。8月29日の毎日新聞に夏期セミナーの記事が掲載されました。

2回目となる今年は、当館のホームページのみの広報であったにも関わらず、10代から80代まで幅広い年齢層、職域の方々から申込みをいただいた。受付締切り後の申込みも多くあり、映像ホールの定数の関係で残念ながらお断りしたが、主催者が想像する以上の反響だった。

今後は夏期セミナーを開催する回数を増やすこと、2日間コース、フィールドワーク、授

業実践などの専門コースも考えたい。また今回いただいたご意見やご感想を参考に、内容をより充実させていきたい。

2016年夏期セミナー参加者

職 種	人数(人)	%
教員	81(43,38)	68.6
教育委員会	4	3.4
民生委員	1	0.8
県庁・区市役所	9	7.6
清掃事務組合	2	1.7
社会交流会館	1	0.8
NPO	2	1.7
学生	6	5.1
弁護士	1	0.8
会社	6	5.1
その他	6	5.1
合計	118人	100

アンケート回収 66人/80人=82.5%

2016年夏期セミナーのアンケート

1. 今度、自校の生徒を連れて見学しようと思い、その前に自分自身でもしっかり勉強しよう
と今回のセミナーに参加しました。
2. 最初の成田先生のお話で「他所事で片付けしないで、自分のこととしてわかってほしい」と
いう言葉で、生徒に伝えるべきメッセージが決まりました。私も生徒と一緒に向き合っ
ていきたいです。次はセミナーに生徒を連れてきたいです。是非フィールドワークもよろし
くお願いします。」(40代男性)
3. 改めて生きていく勇氣、自分の立場を考える時間を与
えてもらい、とても参考になった。」(60代女性)
3. 「一日という長い研修でしたが、館長の成田さんのはじめの言葉から、とても衝撃的で、
心に突き刺さりました。差別について考える時、差別される側と、する側の構図ができる。
大切なのは自分の目や耳で真実を知り、想像力をもって考えること、その先にできる事を
行動に移すことであり、このセミナーに参加した一人としての役目なのではないかと感じ
ました。」(30代女性)

4. 成田先生の「同情しての涙」でなく、「その人の立場に立って、隣で涙を」との表現が心に残りました。相手の立場に身を置くことはなかなかできることではないので、せめて想像力を豊かにしたいと思います。
5. 平沢保治さんの力強いお話に感動しました。これからも長くご活躍ください。
6. 語り部平沢氏のお話、医学、歴史的見地からの講演と内容が多岐にわたる、非常に理解しやすいセミナーだったと思います。
7. 正直なところ何も知らなかったことを、はずかしく思っています。逆に知ることが出来うれしく思っています。そして、職場や子ども達にも伝えていきたいと思います。
8. 昨年の夏期セミナーで学ばせていただき、今年もぜひ学びたいと思い参加させて頂きました。お話をうかがう度、学ぶ度に深く耕される思いです。心より感謝しています。
9. 平澤さんのお話や館長のお話を伺って、啓発をすること、続けるためには長い年月が必要であって、当事者の方の声や、その人達の気持ちを感じ、自分に置き換えることができるかと自分に何度も問いかけていました。これからも、いつも自分に問いかけをしながら、人権尊重をしていきたいと考えています。

2016年夏期セミナーに対する要望事項

	要望事項
1	フィールドワークを行ってほしい
2	図書館の本の紹介をしてほしい
3	子ども達が今の問題として学べる企画を作っていただきたい。
4	ハンセン病と文学、ハンセン病と戦争などのテーマで講座をしてほしい。
5	もう少し掘り下げた内容があってもよい。たとえば1回目、2回目というような
6	女性の人権に当てた内容のものもあればと思います。
7	一人一人の歩みと意思を知ることができるようなもの。
8	回復者との座談会をして欲しい
9	ハンセン病を通じて差別や社会を考える企画をお願いしたい。
10	ボランティアとして参加することも検討したいです。
11	是非7月にも開催して下さい。
12	この問題を真剣に考える人が一人でも増えるような啓発活動をして欲しいです。
13	看護師は、どのように過ごしたのようかを考えていたかを知れる企画を見たい。
14	参加者同士の意見交換ができるものがあると嬉しいです。
15	夏期セミナーを数日やって頂けるとありがたいです。
16	学校で一般教師が行っているハンセン病に特化した 授業の実践の紹介

考察：

「ハンセン病と人権」夏期セミナーは、2015年に教員向けに第1回夏期セミナー（2日間）には、定数60人に対し47人が、2016年に対象を限定せずに第2回夏期セミナー（1日間）には、定数50人に対し、118人が参加した。第2回は、職種を限定せず、1日開催としたことで、定員を大幅に上回る参加者となった。しかし、第2回の118人の参加者の70%は、教員であったこと、しかも、学校単位、教育委員会単位の参加者が増えたことから2015年夏期セミナーのような教員に特化した夏期セミナーの開催を考えなければならない。

都道府県職員、教育委員会、教員、企業の人権担当者などかの参加者から寄せられたご意見やアンケートから、「ハンセン病と人権」夏期セミナーの開催が期待されていたということが分かりました。また夏期セミナーに参加された方々から、夏期セミナーを継続して開催して頂きたい、学校や職場に来て講演をしていただきたい、都道府県の教育委員会に申し入れて、すべての先生に聞いて頂きたい、北海道の学校は、8月中旬から授業が始まるので7月に開催して頂きたいなどの要望が出ていることから、今後、要望の多かった夏期セミナーの複数回開催、1日講座、2日講座、専門講座、授業実践のための講座、親子で学ぶハンセン病講座、出張夏期セミナーなどの具体化を検討したい。